

製作を中心にした単元活動



飯 沼 富 美 子
岡 本 英 子
大 平 金 子

一、単元についての本園の考え方

単元とは、一般的には、教育効果をあげるため、学習活動を教育内容や学習経験ごとに系列をたてて構成し、教育計画のうちの「一単位としたもの」というようにいわれています。

しかし、このような考え方を理解できないわけではありませんが、実際の幼稚園における幼児の活動をみていますと、そこになにか無理ができてくるように思われます。

その理由としては、まず第一に、

① 教育活動を学習内容や学習経験ごとに、系列をたてて構成することは、必ずしも、幼稚園においてできないということには、なりません、しかし、どのような学習内容や学習経験を実際に

とりあげ、これを系統化して構成していくかということになりますと、多くの問題があるのではないのでしょうか。すなわち、学習内容が、すくなくとも、伝統的な文化遺産のもつ系列のなかから——（いわゆる科学の系列のなかから）——とりあげられてくるものであり、それらを学習の可能な経験の配列のなかに位置づけていくことでしたら、幼稚園における学習経験としては、多くの問題を残すことになりましょう。

② いうまでもなく、幼児の精神発達が未分化であり、そのために、幼児の生活があそびを中心としたものであるということが認められる限り、学習経験を、科学の系列化のなかで構成するということは、適当なことではないでしょう。実際には、幼児の学習経験は、興味や関心を中心とした、ある程度の偶発性に支配さ

れた学習経験をしている場合が多いといえるからです。

③ しかし、そのような学習経験の中で、幼児は、それぞれの発達課題を解決していつているということが認められます。すくなくとも、系列の構成が、発達課題に対する解決の系列による構成ということであれば、そこに幼稚園における学習経験の系列ということも成立するでしょうし、幼稚園における単元そのものも成立するようにも思われます。

また、学習経験についての時間を、幼稚園における幼児の生活そのものからみていくと、幼児の一日の生活は、いろいろな多様な学習経験から成立していることはいうまでもありません。だから、このようなものを、単元として展開していくことは事実上不可能だということにもなります。

以上、一般に単元といわれるものについて、いろいろ批判がましいことを述べてきましたが、このことは、単元を否定するため述べたものではありません。実際には、本園においても、単元ということばを使用します。でも、わたくしたちは、単元ということばを、それほど厳密な意味で使用していないということになります。

① わたくしたちは、幼児の経験のなかで毎年の実践記録を見直してみても、わりあい出現率の多いもの、即ち、幼児の興味や関心の強い経験や活動ということになるのでありますが、このよう

な経験や活動のなかで比較的長時間つづいて発展したもの、また発展がある期間続きやすいものを単元としてとりあげることになっています。

② そして、これらのなかでは、幼児の興味や関心からみて、実際には、製作的な活動や役割あそびを中心とするものが比較的多く含まれているということになります。

③ もちろん、これは、毎日毎日連続的に発展するとは限りませんし、断続的にでも発展していくものが多く、また、幼児の幼稚園の生活の中で、必ずしも一日中あそばれるというものでもありません。ある日は、長時間あそばれ、ある日は、短時間の場合があっても、それについては問題にしないことにしています。

④ ということは、幼児の活動が、単元的なものより、もっと望ましいものであれば、単元的な活動が、必ずしもなされなくてもよいということでもあります。

⑤ しかし、幼児とても、毎日毎日の生活が、単元的にとりあげたものより望ましい活動が連続しているわけでもないし、ときには、幼児自身も、あそびが発展しなくて困り果てているときもあるでしょう。このようなときには、単元的な活動を用意しておく、そのような活動（誘導していくということ）もできるというよさが単元活動にはあるということです。

⑥ このようなことが、単元といえるかどうかは、不明ですが、

わたくしたちは、単元については、結論としては、弾力的に取扱うことにしています。

⑦ つまり、単元は、一ヵ月以上の期間をもつようなあそびで構成することにし、その期間の中でも幼児の毎日のあそびを重視しながら、幼児の興味や関心を高めつつ、無理をしないように取扱っていくという方法であり、もっと望ましい活動があれば、単元的な活動は、どうしても、なくてはならないとは考えていないし、その時期も自由にした方がよいと考えています。

二、単元“水あそび”について

さて、前述のような、単元の考え方の上に立って、一例として、本園において実際にとりあげた“水あそび”についてこれからみていくことにします。

(1) 単元の構成

水あそびは、幼児にとってもっとも好まれるあそびであり、毎年、暑くなる六月下旬ごろから七月中旬にかけて、さかんに行なわれるあそびであります。そこで最初に単元を構成する条件についてまずみていきたいと思います。

① 幼児の発達からみて

四日市市の公立幼稚園は、一年保育である関係上、四月、五月は、幼稚園では、“ひとりひとりの幼児が、安定感をもって、活

動できる”ようにということを中心にして保育を展開してきています。即ち、どの幼児でも、教師との一对一の人間関係を中心として、安定感をもたせ、幼児の興味や関心をひきださせることによって、それぞれの幼児が、幼稚園で、十分にあそべるということに留意して、指導をしています。そのため、教師は、一人一人の幼児が十分にあそべるために、保育室にも、戸外にも、できるだけ環境を整備しておくことや、それぞれの幼児の感情を、教師ができるだけ受け容れられるような保育のできるように努力をしています。その結果、幼児は、それぞれのもっている個性（パーソナリティ）を教師に示してくれます。ですから五月になると自分から、幼稚園へ来たら、どのようなことをしてあそぼうかということについて、期待をもって登園してくることが可能になります。そして五月の終りごろになると入園時に比べて教師に対する依頼度は著しく減少してきます。と共に、二、三人のもだちとなら、仲よくあそべるようにもなり、ともだちとの関係で、あそびが発展していくことも、そろそろ可能になり始めてきています。だから六月になりますと、製作などの作業を中心として、これらのグループで、簡単なあそびは、ある程度継続することも可能になってきます。また、素朴な売買ごっこなどの役割あそびも、みられるようになってきます。だから、あそびの発展についても、教師は、ある程度の予測が可能になり、製作活動の中

心とした、単元的な展開の可能性もできてきます。

② 単元の展開からみて（昨年の実践の結果からみて）

このような幼児の発達からみて、昨年度の実践記録をみていくと、水あそびは、単元的な取扱いを可能にする要素を多くもっているといえます。即ち、

- a どんこあそび、色水あそび、魚つりあそびなど、集団的なあそびへの要求を満足させるあそびが、数多く用意され易いこと
 - b そして、それらは、あそびの質からみて、夏という時期からみても、必ずといってよいほど、出現する可能性の多いこと
 - c とくに、製作を中心とする「魚つり」あそびなどは、毎日のあそびの中で、断続的ではあるが発展する可能性の多いこと
 - d また、これらの一連のあそびが互に無関係でないこと
- などの理由において、単元的展開をしてみることになりました。

③ 単元の展開の予想

そこで、次のような、単元の展開の予想をたててみました。

- a 期間は、六月下旬から七月中旬とします。
- b 暑くなると、水を使つてのあそびがきかなくなるので、とくに、砂場などにおける、どんこあそびなどを契機として、水あそびを展開することになります。

c そして、どんこあそびなどから、色水あそび、しゃぼん玉あそび、などを経験させながら、プールを利用して、製作によ

る魚つり、舟あそび、また、つり堀などを、その中心的な活動にするようにします。

d 展開の順序は、はつきりきめるといよりは、幼児のあそびの発展に応じて、適宜経験させることにしました。

e また、毎日の生活の中でのくり返しの中で経験していく、基本的な生活習慣や、感覚的な発達に関するものは、単元の展開の中で、または、単元に関係なく十分経験させていきます。

f そして、単元としては、予定されないが、その中で出現する望ましい経験があれば、単元的な展開の中で経験する活動よりも、優先して、その活動を十分にさせてやります。

三、単元の中で実際に経験した幼児の活動

そこで、実際に単元の中でみられた幼児の経験や活動の一覧を示すと、四六頁、四七頁の表ようになります。この表には、単元に関係した活動と、そうでない活動に分けて記してみました。

四、魚つりあそびの実践例

ここでは、水あそびの単元の中で、製作をともなつて比較的、あそびが発展しやすい、魚つりあそびについての実践例について述べ、単元的取扱いの概略を御紹介したいと思います。

〈魚づくりがはじまるまで〉

水あそびの経過

月 日	単元に直接関係ある活動		行 事	単元に直接関係のない活動
	活動とつくったもの	ごっこあそび		
6 10 (金)	・ジョロで水まき ・どろんこあそび (おだんご)			粘土, 注射ごっこ, ままごと 箱車, ブロック, 木工
6 11 (土)	・水を使って, 川, 池, 島を つくってあそぶ			指人形づくり, 鬼ごっこ, プラ ンコ, ながし絵, ままごと
6 13 (月)	・〇児が持ってきた, セニガ メを池にうかべてあそぶ ・ジョロで水まき			指人形づくり, にじみ絵, 木工, チャンバラごっこ, ままごと
6 14 (火)			日脳注射	お客さまごっこ, 指人形あそび, チャンバラごっこ, 積木, 木工
6 15 (水)				指人形あそび, あわせ絵, 木工 風鈴づくり, 紙芝居づくり, 積木
6 16 (木)				指人形あそび, 風鈴づくり, 紙芝居づくり, 積木, ままごと
6 17 (金)	・どろんこあそび, 6, 7人 のグループ (3組) が, 鬼, にわとり, わしをつくる	さかんやあ そび		組板, ままごと 風鈴づくり, 紙芝居あそび
6 18 (土)	・どろんこあそび, 4, 5人の グループ (2組) ロケット, とりをつくる ・水玉あそび・舟づくり	さかんやあ そび		あわせ絵, 切り紙, ままごと, 組板
6 20 (月)	・ホースで水をまき, しおひ がりあそびをする	しおひがり ごっこ	誕生会	注射ごっこ, 指人形あそび, 組板, ままごと
6 21 (火)	・ホースで水をまき, 川や池 をつくる ・魚をつくる	しおひがり ごっこ		積木, ままごと, ブロック
6 22 (水)	・魚をつくる	魚すくいあ そび		ままごと, 注射ごっこ
6 23 (木)	・魚をつくる ・舟をつくる	魚すくいあ そび		注射ごっこ, 鬼ごっこ, タイルな らべ, かたつむりとあそび, 積木
6 24 (金)	・ホース, バケツで, 砂場に 水を入れて, 川, 池をつくる ・足洗場に水をはって, 舟を 浮かばせてあそぶ ・舟をつくる			ままごと, くじ引ごっこ, 陣とり
6 25 (土)	・ホースで砂場に水を入れて 川, 池をつくる ・足洗場の池に魚, 舟を浮か ばせてあそぶ		身体測定	しゅうごうあそび, ままごと, くじ引ごっこ
6 27 (月)				くつかくし, しゅうごうあそび, レール汽車, えをかく
6 28 (火)			台風のため 早く帰園	積木, レール汽車, えをかく, しゅうごうあそび
6 29 (水)	・魚づくり, つり竿づくりを する ・足洗場に魚を浮かばせ, 魚 つりをする	魚つりあそ び		くじ引ごっこ, えをかく, 陣とり, ながし絵
6 30 (木)	・魚づくり, たこ, かにづくり ・魚つりあそび	つり堀あそ び		くつかくし, かたつむりであそ ぶ, 粘土

7 1 (金)	・魚つりあそび・お金つくり ・色水つくり	つり堀ごっこ		チャンバラごっこ, ままごと
7 2 (土)	・色水つくり・魚つりあそび	つり堀ごっこ		食堂ごっこ, ながし絵 チャンバラごっこ
7 4 (月)				星つくり, たんぎく, えをかく 切り紙, 積木
7 5 (火)	・ホースで砂場に水を入れ池, 川, ダムをつくる ・しゃぼん玉あそび・せんたくあそび		腸バラ注射	粘土, 切り紙, 組板, ちょうちんつくり
7 6 (水)	・色水つくり・お金つくり ・ホースで砂場に水を入れ川, 池, ダムをつくる	色水ごっこ		積木, 粘土, 食堂ごっこ ちぎり紙, えをかく
7 7 (木)	・しゃぼん玉あそび ・せんたくあそび	色水ごっこ	誕生会	
7 8 (金)	・ホースで砂場に水を入れ, 川, 池, ダムをつくってあそぶ ・舟やたこつくり			粘土, 組板
7 9 (土)	・しゃぼん玉・せんたくあそび ・魚を入れる(かご)袋をつくる	色水ごっこ つり堀ごっこ		
7 11 (月)	・水でっぽうあそび ・舟つくり, 舟を浮かばせる ・魚つくり	色水ごっこ		粘土, ままごと, タイルならべ, のりものごっこ
7 12 (火)	・ビニールプールに水を入れてあそぶ ・しゃぼん玉・水でっぽう ・ホースあそび・かにつくり	つり堀ごっこ		粘土, 組板, 積木
7 13 (水)	・水でっぽう・ビニールプールで魚つりあそびをする	つり堀ごっこ		食堂ごっこ, 積木
7 14 (木)	・しゃぼん玉・水でっぽう ・シャワーつくり, 魚を壁面に につける			組板, 粘土, 積木
7 15 (金)	・しゃぼん玉・せんたくあそび ・ふん水あそび(魚つりあそびや, 魚を壁面につける)			えをかく, 積木
7 16 (土)	・ジョロ, ホースで砂場に水をまき, 川やダムをつくってあそぶ ・シャワーあそび, 魚を壁面に につける			えをかく, 粘土
7 18 (月)	・ジョロ, バケツ, ホースで砂場に水 をまき, 川やダムをつくってあそぶ ・しゃぼん玉・水でっぽう			えをかく, 手型あそび, 組板
7 19 (火)	・シャワーあそび ・ビニールプールに入ってあそぶ ・ふん水あそび			組板, ままごと, えをかく
7 20 (水)	・シャワーあそび ・ビニールプールに入ってあそぶ ・ホースで水まきしたり, ふん水あそび ・色水あそび			組板, ままごと, 粘土
7 21 (木)	・シャワーあそび ・ビニールプールに入ってあそぶ ・せんたくあそび		身体測定	うちわつくり, 組板
7 22 (金)	・シャワーあそび ・ビニールプールにはいってあそぶ			組板, えをかく, うちわつくり

六月から七月にかけて、何かひとつまとまったことをしたいと考え、定期的にこのころは、水によるあそびが顕著にあらわれてくるであろうと予想し、私たちもそのあそびを、幼児に思う存分満喫させてやりたいと考えました。そして水あそびに関連したいいろいろのあそびを、水を媒介として幼児自身で繰返しあそぶなかで、発展させていきたいし、水あそびにおける広い学習経験の中で、断続的に発展するであろう舟づくり、魚つくりなどの製作活動を考え、魚つりごっこ、つり堀などを考えました。

そうしたなかで、水まきあそびから予想されなかった、しおひがりあそびが発展し、貝が出てきたので、魚つくりを中心としたあそびをとりあげることにしました。

六月二十日 へしおひがりあそびをする

六月十日頃より、園庭、花壇の草花に水をまいたり、ごろんこあそびなど水でのあそびがはじめられた。今日も登園すぐから、元気のよいＹが、足洗場のホースをみつめて「先生、ホースかして」といいながら、部屋へとびこんでくる。「はい、かしてあげるわ。Ｙちゃんホースで何するの」「水まきするの」「そうー、お友だちのいない方へ向けて、水まきしてね」「うんするよ」とみてる間に外へ出て、蛇口にホースの口をはめて、水道の栓をひねり水を出している。しばらく水のでるようすを見、中腰になってホースの先をつまみ水をとばす。「まあ、Ｙちゃんずい分とお

くまでとぶわ。あとで花ばたけの方にも水かけてね」「うん、してあげる」とにっこり得意げにいう。遠くの花壇にまで届けよとばかり水をとばしている。「先生、こんどは、ぶん水してみよう」とホースの口を上へあげ、先をつまむ。「わあー、ぶん水、ぶん水だよ」とＹのよろこび。「ほんとに、いいぶん水ね」日頃、落着きなく、手がはやく、人に迷惑をかけることの多いＹとは思えない。たのしいあそびに生き生きしている。「ばくも」「ばくもしよう」「Ｙちゃん入れて」「うんこいよ」と、見るまに水まきあそびが、にぎやかになる。ホースからでる水で、足洗場付近が水びたしになり靴がぬれてくる。幼児たちは、はだしになってあそびをつづけている。園庭に水は流れて、あちこちに水がたまっていた。女子三人もはだしになって「入れて」といいながら、とび出していく。ぴちゃぴちゃといい音を立てて砂いじりをしている。それを見ていたＭ「しおひがりみたいだ」「ほんとー、しおひがりのはまみたいだね」「あの子たち、石の貝をひろってる」「しおひがりだー」といって、二、三人がはしっていく。こうして水まきが発展して、しおひがりになり、石のかいをひろって足洗場にいれていく。そのうちに十時半すぎになる。中断するのは可哀想なくらい一生懸命に、それぞれのアそびをたのしんでいるが、今日は、園全体で、六月生まれのお友だちの誕生会を一しょにするため、残念ではあるが中断した。このような活動がなされたの

で、教師としても、いいチャンスと思い水あそびの単元をとりあげることにした。

六月二十一日 〈魚つくりをする〉

今日も朝から昨日の続きがはじまって、川、池ができて、かいひろいをしている。昨日のあそびから、魚つり、つり堀あそびのための製作活動の一コマとして先ず、空袋利用の魚つくりをと思い、そのための材料を環境設定した。材料は、ビニール空袋、紙袋、ビニール色テープ、牛乳ふた、木目、マジック、針金などである。登園してきた幼児は、早速材料をみつめて、ビニール袋に息を入れてふくらましている幼児や、牛乳のふたの赤色ばかりをあつめて袋につめこんでいる幼児がいる。「Iちゃんの袋は何も入っていないからすきとおっているし、Kちゃんは赤色のふたが入って赤くみえるね。二人とも口の方をゴムでとめてみせて頂だい」「先生できたよ。これ(口の方を手にし)しっぱみたくなった」「あら、ほんと。魚のしっぱみたいね」「すきとおった魚と赤い魚ができたわ」と話しながら、教師も一しよに作っていく。幼児たちは大喜びで、空袋の中に牛乳のふたを、木目を入れてある程度ふくらみをもたせ、次に魚の胴体と尾の部分の区切りがすぐできるようワゴムでとめてから、マジックで目、口、うろこをかいたり色をぬったりしている。案外抵抗なくできる。積木、ブロックをしていた幼児も「何つくってるの?」「魚よ」「私もしたい」

と、いって仲間に入ってきた。「私のは、青い魚よ」「できた、できた」「あのね、ぼく昨日川へ魚とりにいったよ。この位のモロコとふながとれたよ」「ぼく、えびがにとったことあるよ」と、幼児たちは、魚をつくりながら話がはずむ。「先生、この魚どうするの」「魚で何かしたいの」「わたし、うかしてあそぶの」「ぼくつってあそびたいや」「そう、うかしたり、つりたいの。そして、作った魚の口、つれるように針金をまるくつけておきましよう」と短くきった針金を出してやる。「先生針金どうやってつける」「しにくいかしら。魚の口に穴をあけて針金を通して、その先を合わせてビニールテープをはっておきましょう」としてみせる。袋にマジックでうろこ、目、口などかいて作った魚、袋にビニールテープをうろこといってべたべたはった魚、紙袋に紙をつめ、外側に目をはり、色紙をちぎったり、きったりしてうろこを作り、はってできた魚、その他色々の魚ができた。十一時すぎ帰園の用意をするため製作活動を打ち切り、室内外の片付けをする。

六月二十二日 〈魚すくいごっこをする〉

今日も予定としては、魚つくりだと思って、部屋へいくと、う魚つくりが始まっている。そこで、昨日できた魚はとみると、しおひがりごっこの友だちが、あつめた石のかいをいれた足洗場に水をはって浮かしている。「魚いりませんか」「一匹どうですか」と、客寄せをしている。製作コーナーに、今日は魚つくりの

材料として、ビニール容器、ビニールテープ、マジック、麦わらなど用意する。

幼児たちは袋と違うビニール容器を手にしに、「これちょうだい」「はい、何つくるの」「ぼくふなつくるの」「はい、つくってちょうだい」「わたしビニールテープをうろこにして、はりつけよう」と昨日の経験を生かして進んで活動している。I児、マヨネーズの容器の底を手枚通しで穴をあけている。「Iちゃん、魚の口をあけるの?」「うん」「よく考えたね。口のあいた魚、とていいわ。でも、この穴あけあんまり強く通しすぎ、手をついたりしないように気をつけてね」「先生しっぽがないや。どこにつけよう」「口のところに付けてみる。ひらひらさせるしっぽもいいし、何でつくる」「リボンがほしい」「二色のリボンをわたす。それを適当な長さにきって、ビニール・テープでとめていた。めずらしいしっぽの魚ができた。足洗場の池は、いろいろの魚が、きれいに浮かんでいる。「なんでもとうるか」「どんなものがいにかしらね」と一緒に考える。「先生、このかんは」「このかん、いいですよ。だけど、一匹ずつしかとれないわね」しばらくして「先生、たまは」「いいわね。よく考えたわ」と、空かんとたもとで、魚すくいあそびがはじまった。タモで一度に五、六匹とっては、又、池に逃がし、一匹ずつかぞえてすくったりしてあそぶ幼児、一匹すくっては、池の幼児に、タイルのお金を出して売買してる幼児、

買った魚をままごとあそびでごちそうにする幼児と、今日は、できた魚をすくってあそんだ。

六月二十九日 へつり竿をつくって魚つくりをする。

「先生、タモのあみ、やぶれちゃった」「まあ、あみは、とってしまいましょ。残った竿ね、つり竿にしたら」「うん、つり竿にする、する」「先生、針金ちょうだい」「どうするの」「あのね、つり糸のかわり」といって竹に針金をまき、先の方をつり針のようにならべている。「先生、しゅうごうあそびのように、すぐ引つつくものない」「あれ、じしゃくっていうの。じしゃくでどうするの」「先生魚つるの」「はやくつれるだろう」用意した磁石をだした。幼児たちは、つり針のところに磁石をとりつけ、すぐさま池にとんでいく。わーつれた、つれた。磁石はいいや」「はやくつれるよ」「だけど、重いや」「水が入ってあかん。こんなのどうしよう、先生」「別にして、水をだしておいたらどう」と水の入った魚は、バケツに一先ず入れておいた。つり竿ができたので早くつり竿でつってあそびたいが、魚つり場が混雑してじゅうぶんあそべない。つり堀を明日はもう一つ作ろうと話合った。

六月三十日 へたこ、かにを作る。

登園した幼児たちは、遊具コーナーから積木を持出して「ままごとの隣りに、池をつくらうよ」と積木の池をこしらえた。そこへ、魚を入れつり竿やあみを出して、魚つりあそびがはじまった。

「つれたー」「わあー、でっかいのだ」「させて、させて」「わあー、Kちゃんの竿にひっかかったよー」「ぼくもう三びきつれた」「ぼくは、まだ一びきや」とにぎやかなこと、「あか、あお、きいろ、きれいな魚……」と、魚をみながらうたっている幼児たち。今日は、製作コーナーで製作している幼児は三人、つり堀あそびが盛んである。つり堀あそびで十分あそんだ幼児が「先生箱ちょうだい」といつてきた。「はいはい、なににするの。どれ位のがいいの」ときくと「あのね、大きいほしいの」「Eちゃんみてちょうだい」と一緒に箱の置場所へいく。中くらいのダンボール箱を見て「これがいい」と手にする。「これなら、かぶれるくらいね」というと、「先生、ぼくね、図鑑でみた、たこ作ろう。作ってかぶってみるよ」といつて、コーナーで早速つくりはじめる。目、口をマジックでかき、目をあけている。足をいらないダンボールで作って、動けるようにということ、足を胴へ割ピンで取付け、動けるように考える。えのぐで色をぬりできあがる。「先生できた。Oちゃん、できたよ。たこだよ」といつてすっぽりかぶってあるく。「わあー、たこだ。たこがあるいてる」「こっちへくる。わあー」「まきつかれるぞ。にびろにびろ」女児たちはにびるが、男児たち「つかまえよう。つり堀へいれよう」と鬼ごっこならぬ、たこ追わえっこがはじまる。元気のよい幼児たちにつかまり、つり堀に入れられる。とてもおもしろいらしく、繰返し

てあそんでいた。女児たちは、小箱がほしいといってくる。「なにをつくるの」「この赤い箱でかにつくる」小箱や中箱を製作コーナーにだす。「先生、かにの足どうやってしよう」「どんな足がいいかしら」と一緒に考える。「立つてるようにしたいなあ」「何を使ったらいいかしら」コーナーにある麦わら、ストロー、画用紙、針金、など見ていたNは「ぼく麦わらにする」麦わらを足やハサミにする。「わたしは、ストローにする。赤い色ちょうだい」と、箱に合せてハサミや足をつけてる幼児、ハサミを横にしている幼児、目だまを立ててるかに、ストローの先を斜に切り、かにの目だまを色紙で作ってストローに入れて、特徴を強調している幼児など、「わあーTちゃんのかにの目、本当の目だまみたい」「M子ちゃんのかに、大きなハサミもってるよ」「おかあさんかにと、こがにができてる」とにぎやかに話している。今日は魚つりあそびに、製作活動にとみんなが、よくあそんだ。

七月一日 へお金をつくってつり堀ごっこをする

登園したYが、つり堀をもっと広くするのだといつて、昨日までの積木に椅子を加えて大きく広くしている。三、四人の幼児も登園後仲間入りしてつり堀をつくっている。平均台を積木の後におき、平均台ののつて魚をつるよう、積木がくずれないように考えている。広いつり堀ができると、魚の家がほしいと野菜の木箱を屋根にして積木の柱で幼児たちは、魚の家を構成した。

今日まで魚すくい、魚つりあそびに、タイルをお金にして使っていたが、タイルのうらに数字のかいてあるのをみて「紙でお金つくろう」「おさいふもつくろう」と殆ど全員が作った。お金ができる、つり堀ごっこは、入場料から、魚をつって買うのをお金で払うと幼児たちはきめて、入場口にいる人、つり竿を渡す人、魚をつったのを数えて売る人などの役ができてあそびが発展した。

七月九日　へ魚を入れる袋を作つてあそぶ

水あそびのしゃぼん玉、色水あそびが始まって幼児たちの魚つりあそびも一時中断したが、今日は、IやYやTたちによってつり堀の入口に積木の門がつくれ又、魚つりあそびが活発に行なわれた。積木で門をつくつたのでつり堀のまわりに、空かんを並べて堀にしている。つった魚を入れる空かんが、かこいになったので魚を入れる袋を作ろうと、画用紙、包装紙などで、二つ折にし持手をくりぬき、両横は糊付けし簡単な袋を作った。つり堀は魚、かめ、たこ、かになどが入ってにぎやかになった。大きなつり堀ができたが、真中の魚がつれにくいといつてSが、積木を、とび石のつもりで、つり堀の中へ入れたがよく動くので、ころんではと、安全を考えて「平均台を使つたら」と、中央に平均台の橋ができる。「橋ができた。あの上で魚つりをしよう」「Oちゃんおいで、橋にこしかけてつろう」とにぎやかにつり堀あそびが、繰りひろげられる。十二日、十三日もつり堀あそびが、続けられ

た。そのあと大きな魚たちは、壁面を海にあつたえ「海へ、にがしてやろう」ということで壁面へとりつけた。

以上、わたくしたちの「魚つりあそび」の発展のようすを、実践記録よりまとめてみました。が、このようなあそびは、いろいろの発展をする可能性があるでしょう。でも、これらのあそびを通して、幼児なりに、いろいろな経験をしていったということが、いえるのではないのでしょうか。なお、他のあそびについては、紙面の都合上省略いたします。

五、おわりに

さて、以上述べてきましたことで、本園における単元の考え方や実践についての、あらましは御了解していただけたと思います。でも、この実践を通して、いろいろの問題も残されております。

それは、幼児をとりまく、いろいろな諸条件を、適確に判断する教師の問題ということになるかもしれません。また、幼児の理解についての深さや、幼児の感情受容の問題ということになるかもしれません。でも、このような、大きな問題は、簡単に解決することは、わたくしたちの能力としては、とても困難なことです。

ただ、教育の過程としての製作活動が、単元的な活動をする場合、いろいろな意味において、発展のための大切な条件になることだけは、間違いないことでしょう。

(四日市市立神前幼稚園)